

平成22年に、岐阜女子大学の学生さんから「心温かくエネルギーな町づくり」をめざして、「オレンジ色」を道徳のまち笠松のイメージカラーにしてはどうかという提案がありました。

オレンジ色は典型的な暖色で、明るさや温かさを感じさせる色です。さらに、エネルギーを呼び起こし、充実感を感じさせる色だと言われています。この提案を受け、その年の9月の鮎鮠街道ウォーク

で初めてオレンジTシャツを着てボランティア活動に取り組みました。

5年後の今では、道徳のまち笠松にオレンジ色が見事に定着し、中学生や保護者なども、オレンジTシャツを着てボランティア活動に取り組んでいます。町職員は、クールビズ期間の毎週火曜日にはオレンジTシャツを着用し、町民の皆さんを出迎えています。



オレンジTシャツを着用した町民大運動会のボランティア



オレンジTシャツを着用した清掃のボランティア

かきまつの民話「かせくらし」

かせくらし ②

かせくらしがなくなつたので、新しい糸をまい輪にかけた。ひびろそ（糸の切口につけてある太い糸）を注意してはずし、糸の上口をとり出すと、それを伸ばして枠にとりつけた。そして、またぜんまいを回し始めた。

いつもなら三十分もあれば一枠仕上げるのに、今夜はなかなかかはかどらない。

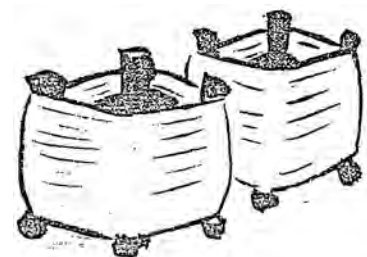
「痛い！」

ふさは思わず声を出してしまった。あかぎれでひび割れのできた指先に、細い糸がくいこんだのである。

「ふさ、あしたまでと言われているのを忘れたのか。今夜中にやってみわんと、新しい糸がもらえんようになるぞ。」

母はもたもたしているふさをしかつた。

ふさは、なまりのように重



くなつた右腕を回しながら、

「あと七枠。」

「あと六枠。」

と、自分をはげますように、一生けんめい回した。糸は、あかぎれの指にしようしやなくくいこんできた。

「がんばってかせくれば、お正月にはこずかいをあげるでな。」

母が今度ははげますように言った。

次の日、学校から帰ったふさは、昨夜仕上げた三十枠の糸を藤車に乗せると、長池の家を出た。

（つづく）